

# 自己教育力を育むための1人1台端末活用に関する研究

－「インターネット活用スキル」の向上を図る授業実践を通して－

情報教育室 渡部 浩二 加藤 憲司 村上 貴彦  
石崎 正人 山之内 孝明

## 1 研究の目的

予測困難なこれからの社会を生き抜くための学力・行動力を身に付けさせるには、確かなICT活用スキルの基で、児童生徒の自己教育力や協働力を育むことが重要である。本研究では、愛媛県ICT教育推進ガイドラインで示されている「インターネット活用スキル」に着目し、その向上を図る授業実践を行った。その過程で、子ども自ら課題を見付け、解決に向けて粘り強く取り組む自己教育力を育むための、1人1台端末の活用について研究する。

## 2 研究の内容

### (1) ICT活用や自己教育力についての調査（実態把握）

研究員が担当する高校2年生64名を対象に、インターネット活用スキルと自己教育力についてアンケート調査を行った。結果から、教育用クラウドサービスを授業で日常的に利用している一方、課題解決の場面における情報検索やウェブ会議システムの利用経験が少ないことが明らかになった。また、授業では、子どもが学習方法を選択したり、振り返りをしたりする機会を設ける必要があることが分かった。

### (2) 振り返りフォームの作成

昨年度の研究において、自己教育力を育成するためには、学習の取り組み方について振り返ることの有効性を確認した。本年度は、新たにMicrosoft Excelを利用した振り返りフォームを考案し、研究員に提供した。オンラインでの共同編集を可能にし、毎時間の振り返りをシート分けすることで、子どもがこれまでの自分の振り返りを簡単に見返したり、自分のペースに合わせて振り返りを行ったりできる。また、学級全員の振り返りを確認することができる。教師にとっては、準備や集計に係る時間を短縮したり、子どもの学びの姿を適切に見取り、振り返りを基に授業を構成したりするなど、授業改善につなげる効果が期待できる。

### (3) 研究員による実践

情報科の授業で、自己教育力を育むために必要な場面を設定し、インターネット活用スキルを育成する実践を行った。実践では、子どもの学習に対するモチベーションを高めるために、日常と関連した課題を提示して、子どものペースで学習を進める時間が確保されていた。具体的には、1人1台端末を用いて、Microsoft365のアプリやデジタルコンテンツを活用しながら、子どもに学習方法を選択させたり、試行錯誤しながら協力して課題を解決する時間を確保したりするなど工夫が見られた。また、机間指導において、教師の肯定的な言葉掛けや学習内容に関する具体例を交えた支援を行うことで、温かい雰囲気の中で自己の考えを深めながら意欲的に課題に取り組む子どもの様子が見られた。

Microsoft Excelを利用した振り返りの実践では、子どもが自分なりの目標を設定し、学習内容や方法を客観的に捉え、見通しを持って学習に臨んだり、前時までの学習への取組を踏まえた振り返りを行ったりしていた。こうした振り返りを継続して行うことで、目標や理由の中にキーワードとなる言葉や課題、展望を具体的に記述する子どもが増加した。

## 3 研究のまとめ

実践後のインターネット活用スキルに関するアンケート結果では、実践前に比べて数値が大幅に上昇した。1人1台端末を活用して、課題解決のためにインターネットで情報を検索したり、Microsoft365のアプリで情報を集約・整理したりするなど、子ども主体で進める学習活動を取り入れた成果である。また、1人1台端末の活用と、教師の授業における様々な働き掛けにより、子どもたちの自己教育力が育まれていくことを確認することができた。